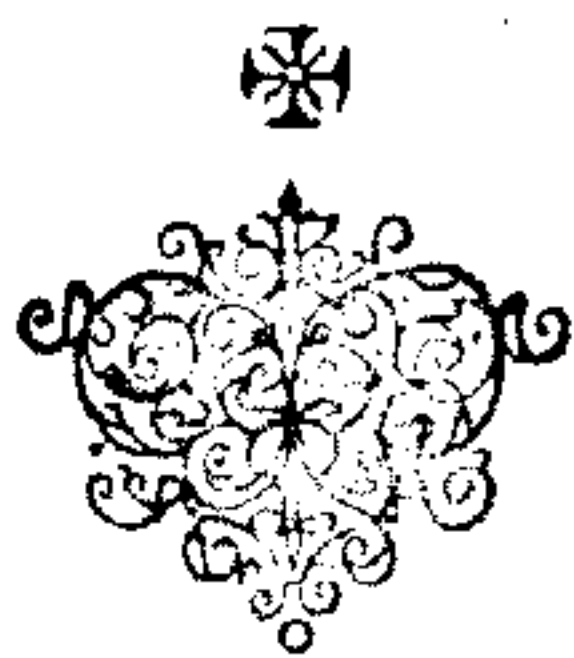




神おせの末千六百十年



おとこむしきよひ

世代いとひびと
まふびきもの



安長十五年四月中旬



巻第一の目録

- 第一 せういのみをふさぐといふはねとまふびきもの 一
- 第二 世とおそれなうね人のまへといふはねとまふびきもの 二
- 第三 三とんりのまへといふはねとまふびきもの 三
- 第四 四とんりのまへといふはねとまふびきもの 四
- 第五 五とんりのまへといふはねとまふびきもの 五
- 第六 六とんりのまへといふはねとまふびきもの 六
- 第七 七とんりのまへといふはねとまふびきもの 七
- 第八 八とんりのまへといふはねとまふびきもの 八
- 第九 九とんりのまへといふはねとまふびきもの 九
- 第十 十とんりのまへといふはねとまふびきもの 十
- 第十一 十一とんりのまへといふはねとまふびきもの 十一
- 第十二 十二とんりのまへといふはねとまふびきもの 十二
- 第十三 十三とんりのまへといふはねとまふびきもの 十三
- 第十四 十四とんりのまへといふはねとまふびきもの 十四

- 第十五人のあやまりとめんめんぐさす 十二
第十六いよへれ若人のかざれす 十三
第十七きさりーだのなこあひのす 十四
第十八んさよふくざとこのひんさす 十六
第十九男とかりこゆんのうみーれす 十八
第二十んげんれんちあさすときゆんすす 十九
第二十一とすろのらん秘のす 二十一
第二十二おゆいぞとてあさうめいととがにあらるーこのす 二十三
第二十三やうざとさゆんといしたのあさのす 二十五

巻第二の目録

- 第一い中にむつとむつとくさんいーさす 二十八
第二なろくちととくさんえんさす 三十
第三ぶどあろふさ人のす 三十一
第四ちやうぐあんとひとあらんてのす 三十二
第五男れう(とさゆんーたよんの)上とたふさふさーあ 三十三
第六さよふんのよろこびのす 三十三

- 第七ざんぐあふしてめんとむひさう大切のす 三十四
第八むあこへあぐされはんとふたいすはむいのす 三十五
第九たけとさゆんをれはかうのみられす 三十七

巻第三の目録

- 第一ふこんあさはゆにぬいせらさめんのはかんさんのす 四十一
第二むの清ことととむりくざろとろとらちやうんーりらひ
たもむさす 四十二
第三えいれざとさゆひさうならさよのす 四十三
第四ととにえんーのとらくちととくふろげととらあつひ
れてまつるさす 四十四
第五えんーの大切のせうこれす 四十五
第六のれぞとさゆいーとすたさむさす 四十六
第七えんれさすあーきたいのぞとにたいーとさす 四十七
第八のぞむむのすについてむへとちあぐさざとさす 四十八
第九ぬあとのくつざとむあーいふのまたつねさるさす 四十九
第十わさんいといとむろとゆはるどゆあーいふのさるさ

第十一文の所かごとひ祿としてげんざいのなんぎえうたのみすべ
ひときんとともくうくべきす 五十一

ひときんどもうくへき
五十一

算十二らむよく減出らゆへ事付けうちぬことのかんまんほる人の
あきりのまゝ 五十二

考一の事 五十二

第十四 わがよき妻とげんざいのとうふき妻とさんげする 五十三
第十四 わがよき妻とげんざいのとうふき妻とさんげする 五十四

わどかざりあき柑の内とんぼおひいたーちうへきす

第十五たゞのぎやうどみなりあるつねさぐらべうごらま 五十五
 第十六ろのたゝあるぶとそれみちよきへゆくまらほに

おろのたーあるぶと長れみちよさきへゆく事

さしまゆぞとふ あ十六
第十七わつりかゝ大物と思ひすごき事をうたせりなきたの——れさぬ

せむきと大物も思ひすぞ

第十八人 此ひもうにたいするあとりりの事 五十八

八人此ひもうにたいするおとりの事
五十八

算すぬきんぎにあふそきふとるうにむたのゝあがめれてまける
 づきぞとひふす 五十八

五十八

第、女けせういふてあやうくぞしてたのーふくはろぎなーと
いふ身 五十九

いふ
九十九

等々人々もやいせう時ふべきにぬの井 卒

一人をいせう時ふぐさぬの事 六平

第坊二いづれの志よきかついでとねんとみくらふやびにあらがひとて
第坊三りんざいのやまねといやーひくふた 木十一

三つんざいのやまねとやばーつてゐるわ
お十一

第廿四の事にはまりんとうきふいさとやんとくききき 六十二
第廿五の事にはまりんとうきふいさとやんとくききき 六十三

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

あといとくそめ 五十二
第廿六人ごとにとばしーりやすきもれあねむたやきくきんば

人ことには—里やすきもれあねだたやきく志んぼ

まどさき 六十三
第廿七人よりちどよくむえうといひかゝるをき世よたのものとみ

せんもうちよくむえうといひかゝるを世よたのちとみ

たてまほぐさす 六十四
第八をりのちきいのちれためよちあにちわてさすといふちうゆ

ハタチのちねにあらはれぬやうに

なまきり 六十六
 身妨ぬ大上のたのいもとげんざいのいふあききやをらんずる 六十七

六十七
 止のたのしみとけんざいのしうあきまをくらんずる

身城をりあきいのちとのぞびきまつけらるるのみにかひきん
すくもてづにむやくそく一ふは愈えやうのます 六十八

下はうにむやくそくしきやうのま
六十八

算外一ち忠よくとふんぎにあふときなるくづらうとてくくえん
 せむさふ 七十

使わさず
子

又さきよりうへにむすのりもあらうものや。わうせき紙
巻よれさめいち志のふつきりとを紙きびくはきうめい何るぞう
ゐるがゆへにげいのうちどおやとる事あるか（け）て清あとのちえと
れそふぢう。ひろく物と思ひとふぢう。たうき事を忘らんとのぞまず
ざる事ハる紙おほしと思ひとふぢう。たうき事を忘らんとのぞまず
してさあんぢうぢうある事をきんげせよ。あんぢうをただけつらち忘やも
ねはく事を一（の）がく志やうをながきにふるとして人やすぐねあり
とはかりぞ。志きあるやうにあつひ志きくおもて人を忘ら建じ
りつひらきぬ事紙のぞめ。論ともわが事紙入る事と男といふ一
ひの事あるだうとくふぢうがくの人也。ためれうへとづつ孫よたうとよき
かこまなもひあーわが男とはなきもの。とくねひさぐば事大さある
ちあたい。ふの事あり。人もあらにきてとがよおちたもきけし紙
をわくとみるといふとわが男紙おきよう論さうならもれとたもす
あかわきゆうまいのゆで器にとくごうと忘らじみふ人はよいき
志う建じとわが男もふぢうよいものなりとわが男ありね

第三 玄実れと一の事

[illegible]

もろくのゆさくれ物ともいふ事ふねは男は一たいのいれをにやて
ま。んひとふすりりえん事して志やうなきあるやとて言あまこの
たうき事をきえううあててわさまう也そのゆへにえべいのひらと
うへをうけなねば也。まよくひとふとりやうんはあまこれ事に
いりてもまよとちうき事な—だんとて世のけなまねのためははとめいら
ざうりどの事ばやめてん志づうなるん事よせいといふもの也。まよ—
おさめまよふんれのぞとにぬさうていの事あんぢとさまたげくる志じろ物
何りやまぶある事おやうよふとん志よとまよん中おまわん—
みまうよわこむくのぞとよひかうて事な—でずぐあるぞう里のみち
びくまよ志よとまよもの也。わが男よかたんとまげく人ふまうて
はあきかつせんとするもの何らんや。わが男よかたはこはぬとまよ
つものる事のみちよとまよへゆく事と男一のいとあまとまよ—
○まんぜまていうある善人とてもあそくまよ—えらむとひるま—
わさらが志けんくふうとあてあうぢくも何事何ろ。がくもんはふうを
こといふとたけれもとめんふまをるうくづりてあて—う事ハ志
だ—うは世へともむきなるみち也。がくもん又あま事よついてま
—事ばうらへ—やうとくのものまみちるり—まよの事だめさ建が

[illegible]

だくみーすみふむあーくろひはせー。海へは舟をたいてー。あつて
ふちまで切ばもく人あねこそたふあひんあね。くらぬれたらあつたよ
あつたよ。にどひにさー。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。



第 四 回

あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。

あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。



第 五 回

あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。
あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。あつたよ。

みづらあるのぞこれす

聖人としてみぬりお物とのぞめばうあらげんさうがーくあるやんさ
 あるもれとさんよくある若ハはいふくろぐもあー。んふあひんも
 ーてへりくぬりうらんあいうもぶーにぶがらあるやん。わが男とよく
 せりーねさめざらんあたらまちてんださんよせめらあひさうのいや
 ーきまよもまはるやん。はびりつよくーていまだーきあれのぞも
 えふあひげんざいのまおひんあつあひまひくせういれのぞもとんあ
 ますわーそれとえふるときにかあーれんあらんまきげく人よ
 きにさうふああまだぬちまういらとおこも也たとひわがみづる

ひやくれぬの——さんとけうまんと
のぞくぐさ

聖女げん又ちあさくれぬまたのこゝとからいみをなまきするなり。我も
 たいーな里て人おけうへいせよてひんどやと見ゆる事をえづる事
 あうね。わづかぬのまぎておぬぬのこゝとかけなうなうちうれよふ
 やどおんぢにあうぢとけとめよ志うば御あうどかんぢうよき
 のぞえにちうちとそへまぢ。あんぢれちとといづきの人れさいうく
 すとたのこゝとからするふう建てるうくぞ人となげたまひまんなさある
 ものときげまおのぢうきにぬのこゝとかけなうなう。たうけもち
 うちとてかろするふうまきたーき人のいせいゆちとてそれまたのこゝ
 からするまのまぎてうんとあうたまひまをわくたまひとく

第八

みづろにふゑたーひまのぞくべし

第九

おとどろくおとどろくおとどろく

聖ちうとふりどんれさわぐーき事とのぞくたといはとあ
 うきんちてはりくふともみもあせけんのと里河川ひる大きある

藝

ぶづけもとむる時ならびよ是れみちに
あふくふくふく

2

○みづうあるのぞととふれてあゝとぶにきいぐへきために
うへきの縁はおのとくどとたけーとくあゝの縁とつげゝふ
とひてはすとやうにたけーとく普人とあるがゝ。とくはもとめもくろ
ん月くにかゝあゝとくまかんいあるはいまもたけれーんぞんの
あゝのそゝとくとくたきまゆまとするぞんドめにきこーんと
おさへひさうゆらにとひてのちとゆやすくよりこびとめくぞんドと
つとめとこまゆまかんぐー。とまゆらとまゆとまゆひのわとまゆふれ
とまゆとまゆむとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆとまゆと
まゆーのちとまゆにまゆまかんぐとまゆてかまゆまゆひとまゆ
まゆとまゆだいまかたまゆにまゆまゆきためより入んドめまゆの

第十一

[illegible]

二九七

るを其かひにばしめばよりきこはしうによりうめさかあひひに
うくらうなる其のうへにあらきよもちやうめいとたいくしーこの
世のいづれよりなるゆゑをいひていふともいふがへきつためよをす
其とのぞむをいひていふたしーなるいづれなるかゝるものなり
其のいづれなるかゝるものなり

第十二

えんげふやぐ

[illegible]

らせきよめらばあんでらる。密也。もろくれば何とちおほくのま
らうてむたさんと志のぞく。波ねたましい。老道又てんぬさんよく
くんめんぜざゆんか昔もとわびでしてあくめんともりえて一若かり。い
あらたつこ人のうへふもひいつきのかく建がとてきてむぬさんとして
こみまげのぐるといふ。まふ。あな人おがらすはひだま。まじくと
てむたさんおあやうう。どといふ。まふ。あな人おがらすはひだま。まじくと
ある。あくにわてなくむまねつさわが男のうちおあ建ば也。一つれあんご
てんこさんさほうとすねざる。まうへふさん。うせいづきとくんぬんどんき
ま。あつだ。まゆんさい。まよれ。くらやうあいのまん。やのくらぬとう。
るひたね。也。てんこさん。とよげたく思ひくる。波あつくおほく人お海。
まぐろ。ぐり。よてお。ま。う。あ。び。ご。かん。よんと。ぬ。この。へ。里。く。が。ら。と
り。も。ろ。く。の。て。ま。ま。あ。と。あ。ぶ。つ。よく。ある。あり。かう。だ。う。と。そ。ら。ひ。て
祿。と。ひ。う。ぬ。お。と。ひ。て。あ。と。く。あ。つ。ま。を。く。あ。く。て。ん。た。さん。に。え。やく。ち。ち
わ。へ。り。て。ま。へ。う。あ。ま。も。ふ。げ。を。と。り。い。ら。も。れ。と。み。ゆ。な。ぎ。ま。さ。里。に。ま。ね。と。力。と
せ。め。く。こ。び。ね。ん。も。ま。も。も。志。だ。い。く。ふ。あ。ん。よ。ん。ひ。あ。さ。た。の。り。き。ま。め。く。
世のゆうりよよくとけ。ま。か。り。ま。や。ま。う。る。ぢ。う。て。ん。た。さん。の。と。さ。ひ
たびく人のいけんどうくべ。又てんたさんにせめらゆ。人にあつけ。

はなれあつたでわがてんださんのときのぞびくさきと人のあつたと
ふざめよ。何のりだあれ——きてんださんのもといひといひもひたらんや
善ふまゝにうらなふと申すたのことうけなる事のすくある事もきゆへい
かぢるさふ様のみにてふもどくぬるく——てなりひさぶめんの事お
とらざる人ちと論ぐのてむたさんにかうさね、悲也。さが舞ひひとりの
ころと番人をてんださんとめくころころと書也。わまたづちうれ
とふがふとちうざねどもてむたさんともて男のわざとわさまする
事ねや——中もそてんださんのもどめとよばふくようどんちぎ
事ありきゆいてきとうちに入めてばあやめのもんこよとくときもに
いでひひもひえらふにひていかし、事やするべ——こをもちろ人の
いくんどめとふせぐむ——とふげのゆるきをまいゆる事とそ—
まづんどめふりぼとなくもう秘んまぢ——つぎにまぢつ——こんばせめ
のちにちよろこびみづりにふさるぎはぬゆうけがふ悲也かくのごとき
はーめとふせがちなゆふまぢいふもとよりいふほいはふてこれとんと
あつや。○ふせぐもよくそくある事ぢはこにわが力によくあらてこれ
ちうちひふいふや

○人による害はみちにとりいふえどめにふうきてんぬさんてうらなす

[illegible]

第十三

Principles of Psychology

〇〇 ぶつぎとくひをうとわがうちをさうくふまへとせうにひて
 清ひろとくは身をそくまねあるだうきゆゑ世のゆふいせう
 ちるやどのだうとさうとひては大切もくぬちぬけしてあそび
 なれとねばめせざる

第十四

[illegible]

人のあやまるとかんずんじふる

巫わがきよもんのうへまをばす。ありあはざる。まゝとてむなづつふけんうひ
あゝんちでいころよりんせよ。そのゆへわがきよとおくしらせかん
やんのきよともむねためよ。はなまるらゝり。まゝとおもへ。かんよんのきよ
してわさくらぐく。まゝとて。なり。まゝとて。さへ。たげあらんとそこ。

十元

第十六

いよいよ此善人のかみれす

聖たつーいふ善とまゝと此みちよかいやきまひわきくらぐだうーとあり
 多ふ善人たられたりといふやうせき減くはん秘をばふー。あまよく
 思ふよとひてはとれらづつとひかまといふよとすくなくなよそひふさう
 ごとーうあゝきうかわきくらがまんごいときゆうせきにくらべても
 なよむれもぞ。我のほろこしとありのあまへこちひさうんとまのぞ
 んごうありまゐんらうくこび連秘ねまぜぶゆんねらまよくはん秘
 三まいよーてんよまれまゝさげそのやうきゆぐれちまよく減りては
 ちろどにけるへま也のきてともろくの陽やうもとろまばちねすこへ
 さうねすびるト秘をまほろのほろうせき減とひこむひのひ
 人といひうぐりねふんまゐらう減りまのまのひのらんきゆんハとりまゐ

いのちにいぬうたまはんだめよけせういよそきとやうとおりにたまは
ざうき也。さてしをやごとくさきまんまよれ普人ぬちいなりうなんざやう
くざやうきやうくくるいといくーのひいうれうひさーきとんださんそこの
いうづわうてんぐにせめられきやうぢうもしたのねらきよと由よといへ
るひつらん。いばううとんどきとひく普れみちにさきへゆわんともし
たちぬひ一つことあくるきとたいらげたまはんだめいなりうどうはよき
かひさんとあきまひー。由はたいーなまていうづうういさきよくすぐあ
あきざーとよりぬまひー。ひるいまんううよゆいからきよとよりあうー
たまひまんくのきよきれ中うとくかん祿んのこしゆるうりーもれるわ
には祿よすこーのひまきとわがーと普よつうひのみや由はたいーからきよ
かん祿んのこめにさきこのまきとまきくまきとわひのみ也。えんてんがう
きんのかんとともてーきぬいのきゆうきよくぶひとわきぬまきや
たうくらぬちんただーとまきやきまんのきよきよよてとあきまひ
たういとひきてたまひ一めいとつぐためにんようあるきよとまきや
ぐにきあきとたまき也。ものむらあるきよにもーきあきおけうはうと
きよきやうかきーひのみ也。まきあきひのきよきたぐひきくひんせんにき
ますといへど由のきよきとせんくはうきよきゆうにきーくはる也

○此の世は、いふよゝめさんにして、うちよばうと世の成とて、つぎの
 めとて、さめらしたまふ世也。世果の事、いふとく——く世ふち、さ
 しく、中よくちぐう——めふら。わづあ、いふき、さぐに思ひあ——せうい
 よ、いふいふ、めらねふといへども、世の成は、いふは、いひたうも、ちひらき
 くらびいふ、さしたまふ世也。このなるく、あらにすりひとある、志と
 かいとか、むえか、とだあでとやんときたまふ、あらあ、成もて、いひ、
 とくは、いふ、さあら、世の成、いふとひて、だくたひの、がらさ、とかうより
 ぬま、うや。いふ、善人、たち、いもろく、のさ、い——だん、のて、やんと、さだめ、ら
 た、まふ、もの也。おや、く、のぬる、さ、人のうへ、とて、いひ、さ、ゆるめ、ら、せ、ん、より、
 み、ぎ、の、か、み、と、て、善、と、も、と、じ、ち、み、ち、あ、す、ま、ん、ふ、と、さ、う、ど、

ものごころなりたんば

新なる物事——このと、あひにむろくは、暮れにかゝやきやうに見ゆる
 ごとくうちとをもとのよき事せ。だう思ふと、さうすにあらはれうよるも
 なげうちと、さうきくさるものゆゑに、つては、さうやまひなつて、さ
 すがさふらんと、さうさう（さう）ひて、さうさうの、さうさうさうさうと、

[illegible]

まにすーのあやまりへたほうぶー。きうれどそぶつーとわがさ
だけにあるまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。わきちうーのまよひもいげともいさうめいーきだひよくさだむべき
。おちあきみふきれとことかきめきためよもさだちあふまふり。きう
ぢうひきこもまはうあふさめて目にいぬびん中にたちうへばー
。あーたよちれもひきだめゆさるよりかうもさよとーとねふとば
まにすーめてまにすーまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。きうれどそぶつーとわがさ

○こんてむつすむん地(十五ウ)のあやまりへたほうぶー。きうれどそぶつーとわがさ
だけにあるまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。わきちうーのまよひもいげともいさうめいーきだひよくさだむべき
。おちあきみふきれとことかきめきためよもさだちあふまふり。きう
ぢうひきこもまはうあふさめて目にいぬびん中にたちうへばー
。あーたよちれもひきだめゆさるよりかうもさよとーとねふとば
まにすーめてまにすーまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。きうれどそぶつーとわがさ

たちうへたほうぶー。きうれどそぶつーとわがさ
だけにあるまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。わきちうーのまよひもいげともいさうめいーきだひよくさだむべき
。おちあきみふきれとことかきめきためよもさだちあふまふり。きう
ぢうひきこもまはうあふさめて目にいぬびん中にたちうへばー
。あーたよちれもひきだめゆさるよりかうもさよとーとねふとば
まにすーめてまにすーまはがさーとさうけんとくへんとたひたつべー
。きうれどそぶつーとわがさ

まよふさきものゝちぞれあぐさけうへにすへらるなりと思しうら

၇၂၅၁၆၀၀၀၀၀၀၀၀၀၀၀၀

聖わが方れうへへうへ里と志あんじふきためふにあひなり志えとだづ
 世の情とんばえけくらん秘をべー。ひやくれ志よとよこひまとついや
 さんふとえ情ととくひうあーひ方ばうへ里みさするきやうとよむじぢ
 ー。ひやくれものがこりとのぞきゆへまぐゆうくまめづらーきうとせれ
 きたとまきくますととげさうにまひてちよきまと志あんするためふ入
 りだれひまととあひなりとまふあふー。まぐねうき人たちちうの
 とまふぐど人のまどなりと志まどさうひひそくに世ふつうへまふまを
 志のともまや。ある人のいへく人よまどいまふたびとにととりとる
 志とるりてかへる也と。ゆるとあるまのまふまふがこまとすうとま
 男におびゆりまおほー。おがこまーとをつとめらんようまふたくい
 ざうあまよとますきまするり。ほうよてだーくに方ばまもばふとまうちに
 あもりぬるはるばやとまま世あるがゆふないせうふたちいりまのみちに
 いらんとおもひ我ともにまよふのまどいりばとげさうのまかんよう也

いふふとひきこもふ人より海はあやうき世はよくもんげんをあつ
るもれな

[illegible]

[illegible]

ドんある人はいかにいばるまよとまれよー人おほみゆるまよときらひは
見らまほこのまきうろそやむじきだいもふなり
○ちかよにめざるまよと見たさとほむいまなるれせういもまきのーとも
こもにすぎさう也。かれのぞくハぶさみのわくにひうゝあらまきと
時すぎてのらんれさんらんーえん志やのをもにもとやうなまきう
のころでいきいづるまよとせうあーひてかへおもひとあるま
おほーいといふまきゆふべうあーきほーたとあるまきりまよせん
あつよくれよろこびあやうにとり入るといふことをおかくらひつきて
はおあるす也。よそよそみまよといふまきうゝめてみざるまよもちやと
回たともあれよてみるまよーまんさうもこそまきうつくらしまきうや。ほめ
志こにといふまきとあたゆるまよよそよてみるまきりや。のぞみと
たりきんとかりうとしてまたけするまきあべうまき。あつりどのまよともく
ぜんにそあつるといふともみもなきしらんをそやうはまきぞく天にまよこと
かけわけぬいとつこのうへとむれたのもなるまよ。みもみまきとぐみも
るまきふまよとあんぢいむとげあまきにせいといふまき。わきうゝよりいこと
どぢあてーまきおとよびまきりまきにわが縁まよなるにといひてにいづく
まよとまきにまきいふまきとみつくまきまきまきまきまきまきまきまき

あはかへまふあはれりあひのす

聖すこゝろとともてぬこくおもひ世のほかたねふとてさやーひまに
 何れもなる世又みもふさきよりこび世なりぞさきしとのまににおこんと
 ふくかきめまもふなり。かとかへ里とてんといぬまーひが事になれよ
 ふうばきんぐとともめぬべーかーひまにんとゆるまをとりさうーあひ
 くらあまこのそくときとかへりとはかあーひのうちにたつちや。せういひ
 くらうれあるらとらんドあふぬのわやうさきとまほんするきいりてう
 たけーとよろこぶますかきさきや。んのかるさきとあやまににける
 ゆるうせによてあまのいぬととおぼくばあーさきおわらすまおほー
 よきんーえんーやと世とたそきさうさきやうまーとのさゆうとまの
 よろこびあーんのさんらんとあるよろけさぬたげとえらひのけき
 わへまにるんのかかーひよあねむつぶもれるたうやうや。わさーと
 ーやとおもくあけげさきのまをえらひすけう人もくらやうさ

✠

Cibabis nos pame lachrymarum, et potam dabis in larymis in mensura. Psal. 79.
 いかに渇ゆるどおみだのむんとなりすらりぬあふ(たまへ)ふみふれ
 えうらめつものなほむくとちゆぐなり

ふんげんのさうきとまへんとする

ろうあきものあり。ほーひまはなまゝとてふさーにそくまんとみたー
 ちるーひぞ。たきあつてふんーんのまゝあるまゝなりや。ゆゑふわをも
 人もこのせういよとひてんのまゝあるまゝあー。なまゝでいていふとと
 あんざうろーとあててせういよふぐーするんあーき中にてひていけう
 まさうんとあつばふぬたいーなりてまんらうとまのぐん也。よま
 若れーとぶよんとたきあるくらけい大きあるふくゆう大きあるいせい
 すぐれんろまんといふまじあるんとやじらや。まうねどもまれたの
 ーひにくらぶまげんせれまいみあなまきぐとくーしてあふある
 まゝひをまにとあるまゝとわきまふべー。まゆんせいのまゝひみるなれ
 きげうひあーとまんたいするまゝあなげ。げんぜいのまゝとくまん
 もつまゝはよんげんのたのーひあゝげうろくふんよみてらんまをまゆか
 るはう也。このうませよまぐーするまゝゆゑあなまゝーまゝ也。あつが
 ゆへよんれみちにいたらんときるなりとそくまゝはよんげんれふそくば
 あきらうにわきまふまゝあなげまわぐぞんめいとまげくふーくおぼゆな
 まゆへまゝまゝのむまゝふすまゝふさうまゝやすまゝまゝこくまゝその
 やつあつうられさだまゝまゝのまゝにあつがいぬまゝはまんろんあ
 さとーたんのためよにならびふくろくふーくえりあきまゝ也。わんか

くらち入いふ人い一かたのさうやとてゆるすべしともしにたり
 せ。さうがゆにせらるゝたふたのさうやとてゆるすべしともしにたり
 たのさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 ぞようとのさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 人にいふてあふさふさんといふとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 しかるやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 も川若り。さうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 といふてあふさふさんといふとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 とてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 ともろくればあふさふさんといふとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 せいのさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 といふてあふさふさんといふとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 ○この人といふさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 まじとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 まや。いふさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし
 もといふたのもいふさうやとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべしとてゆるすべし

[illegible]

しやくぬるゝあるかみねばすあよいはとあるべきぞ。あゝわきぢうがえんだい
いもぐまの最北あるーあゝハ建づるにてもやぶどるいはんはぢうーいり
どくろんどさんとするらうーわが方といさへは海のそとともとめん
ものだのもろくにひては志よりんありものごとくもさかじざとふつけ
もこまあんせらちるむきさまもいつとをかんようや

第一 志すべしん移之の事

聖あぢれうへふけまをやくさるべしとあひだかうをいそよく見たり
 けふある人もあつて思はざらんといふとともになすらるや
 こそも人の心わくづちある物なむとせんれまぐりわと志けん一そ
 みらいれまをばんよみぬるなり。あつちぞれ志よさと志あんすとやがて
 志まんまんとくにわくづちんをまかりのまゐいん—えん—やあるに
 まひていまするまといておそろくまありていざ。志するをまげんよあるも
 とが銭のぞんまいたはまきあら。んはうちうつくしあらばこやうもちう
 けとかくまんとぞもやうにちかぶぢやうよりあひのあくくまんと
 ふにともちりなりぞ。おちどきにいらまをいふけまふにいふまを
 おにのまきぞうやうめいにしてもかうまをいふまをいふまをかくして

どがとかさぬる事おほい。あーこの中にせめて一はよき事はなむ入
たらんか居にたり入りの秘宝とかぞある人たやけきごとをいとまねを
人のすくあ。そをば事とおそれり。ふういさへもばやうさ事もあら
なり。は縁のまんぢうと目たまへよりましひちちすべしかくてとあるを
若いくいやうなり。人のあするをえり事あり。ばわきもまみちとゆうんと
くらんどぞ。あーたあやゆよべいぬらんとたり。事なるね。ゆよべ
よハ又あーたとみんとやくそくする事なる。建うらがゆ人はつ縁をかぐこ
してぬべーぶうぐであるとききこきたらざるやうに物をよくねさめよ。
おもひざる時さんーすの若おほーきゆへびほせんれ清きものひよら
ざる時きこらなむぞ。こそくせいだんにとよんでいあーわくをみる
なちのやうになはしえどめうかどゆだんけだい。その事ハとあらう
いこじき也。きするとさゆりたきとたふごいに。やうきよくおもひの
若あたるやううーこそ人も。たけいて世といとよ事と若のみちよ
めきくゆかんともえたけいさげさ。やうきとまゐるざんとおりのない
またなふてんーやれまんらうあごひの若やすし。ひまふわが事とすき。ひ
まと清きるト。我おにいーなりていあなるんぞと。まのぐでさん
かけろる事あるまゐるまゐるぞうもやう縁んふーてきこるんだのもーき

んとねるだいいくも。じびやうあるときあはれきまてます
 うあゝとておのれのゆつふふーたらんまにうはれきまてます
 ○やまいとておのれたいとふはれきまてます
 けいするとも昔人である事を。ちんちんはいはれきまてます
 おもひまてます。わがたをうのためとあるものととのふりまてます
 ちんちんわがたをうのためとあるものととのふりまてます
 まだんよるまてますとておのれきまてます
 まさきまてます。とておのれきまてます
 あゝあゝとておのれきまてます
 おもひのちとておのれきまてます
 わがたをうのためとあるものととのふりまてます
 きんちんわがたをうのためとあるものととのふりまてます
 まさきまてます。とておのれきまてます
 まさきまてます。とておのれきまてます
 かへてくらんちんわがたをうのためとあるものととのふりまてます
 まさきまてます。とておのれきまてます
 いゝちんわがたをうのためとあるものととのふりまてます

[illegible]

第二

きやいぞとて清きうめいよきにはんり
くろーこの事

聖とんドにつめておのさめと見えよみさびーきけきうめいの清まへに
 めーいださきんとさふにとあふんといふまゝとらんぼろー。け清ま
 よふかくせいのまゝあゝわいろまをめでぬまひぼふわがあまりば中
 わもむづきあひてもとあふぼろけけんばうにこごーあふろー。いふに
 くらやうつたふさぐちあるぞいめん時とそ人のいうきけきとよくと
 見えくさへれそけにあんぢがぞいふとのろところなくまろーめさけ
 由ふじうひな里てゆふあふとくちさきぞ。その時あめんくてもへに
 さむまろろろろーたがひまための上とろあひせーいひむろくまも
 けろまろきゆまふにとていふゆゆのほれかくてとせさろぞ。いまは

[illegible]

第三

ごやうごばんともしぬれぬ

いとひつりまゐるおはけうへなりせんーやとあるためにあゝぢやとてバ
もえたのんぞめくたのーで若れみちにーるべーきゆへんやくえん
らうれいぢやうぢかうすりまのちわふ男の上なれそれうあーひと
ひふすあるべうぢよとそこーあらうとさぐべーいご大さあらく川ろぎ
をりつなきよろこびとえつくべー。けやうこののみにやあゝあゝもし
ぬちゆきとくにといひていぢと又けるんやうとあゝたまたまんまうと
がひあくくらうぢいはまーますべー。里うんとむらくべーとたーかに
たのりーくりーべーあうねどもえんにあがばまーきためにっ、ーまど
ーとんとゆるーぼんどすりあふるら。あんなのもーきんとゆくあ
いうにとあひあやーむれたれの中になびぐんでよいめる時太さに
んぐほーくーとあけせんーやのあるらのたまへはひ連ふーたらあよ
中あんぢうおいかくほ、けやうあうれみちにさくへきままとまりたらん
めのとす時すあひちん中は由の内をんどーとそれとあゝたらんよ
けとさぶさぞすとさえんままとせよまうなけやうきまめあべうぢぞ
○そくだにかの人ちうとぬゆにやうのんいでして由より減まらせなり
いであろべきままときりていとおれしじやくあるさづうひとなめ由の神
さいせいおあひならんままとあげき若ままとそとめたのらぎみちふせいと

二十六

へるなりをばくくつたのこへ *Speru in Domino, et fac bonitatem, et in habitu terris, et pacificis*
daugis eius. Ma. 10. 神のこにわたのこをたてておこし給へるなりをばくくつたのこへ
 方とあつためんものにくたしあつたよりいふこといふこといふこといふこといふこと
 わさでまがこしてさくすまふていひいんちうくさくすまふていひいんちうくさくすまふ
 よきふゆさりとて善のみちをたてていふこといひいふこといひいふこといひいふこと
 りと方とあつたわが方にかつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた
 んがさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 みふたにまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた
 だといひ何まふのあつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた
 ひまわつていふこといふこといふこといふこといふこといふこといふこといふこと
 〇まんでいふこといふこといふこといふこといふこといふこといふこといふこと
 わがまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた
 ふたにふたにわがまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた
 めんとおげくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 〇まよふのぞきこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつたまがこつた

[illegible]

だんだんいのちけふあもともてまーますゆあうどおふあう入なれば
 まするまえはるまなくしてよろづれ神さくの物おぼへーあをまに
 としゆあくけうきう也。つねはすゑとおひいだーうーあひひあは
 かへらざるまといんせよといえあらんがけなくてお誓のくどくともとめ
 えるまうあふくど。んぬらくるりえトめばあひくおあーきまうと
 ねがええーびーつねはもしたつんとやんとするにひてはたまある
 ぶーとえ世のむらさきと誓のくどくにたいしてあらうともかろくおがゆ
 びーといえいんにもしたけんはるるをいんはかくごーてぬるまら。かの
 あせまがをまんらううまをあくれねとちんのくせとふせがきうふ
 ますいおぼふうきまんくせ。せうあくをさうひすてだんだまだい／＼ま
 だあくにおつど。とくねもとめてきねねをうふとひていゆあふま
 うふらぶよろこぶど。かのうへてまもりんねとこーわきと力にけう
 かんー人おふともあうばあきわが力とわきとまするね。わが力にかたんと
 せいといふやどとくともとひるまをふわいね。

えんは昆びんぢき第一の種





又ばまゐびぢやうきやうき等第二

第一

ん中にまといひしうゝくえんい——なるもの

聖書ヨハネの使徒に「*Agui Dei iudea west.*」(Luc. 17.) 世の清くいなさん
 だれうちにありといふあり。あなれこそよき世よたちかへりなり
 びとふさせういはいとやぞ一志うばあんぢれあはゆるつるを地見ゆく
 たり。やうある事とするうちねすとのひむらとするみちであふふ
 とひては世の清くにえんぢあきうらのますともさまふべー。世の清くおと
 いふぶどとをびりのさんちのよろこびふねがあくえよわあさへらまじ
 。さんぢのん中におあひらみざとものゆりにてひてを文えんぢふ
 きふらのひの男のものこびとんせもふぞー。清くぶどれはいくらうと
 ゆーさみをさいきにありそこそ清くまよくまゝます也。ふい
 せうとのひむらとする人おまげくとづきひむつまゝくかうちひ
 このまゝきんれよろこびとたきあるぶどをあふのひふくまゝー

[illegible]

[illegible][illegible]

第二

るくくばりてんてんてんてん

聖さんぢにてきとるーひいきとるすものほりてかゝる来るわさ
おらべさうぢえきよきに由あんぢとこにもまーゆすやうになげきさ
わざはつとびー。んとさよくまもばよとひいて由あんぢとまも里かへ
あふー。由あんぢかうりよくあーのふれあふふらあくまんともてと
ほたとまも里たきもくあふべうととあんだいばうんめんすりやうと
まーばうとがひあゝ由あんぢちうとそへまふぢー。あんぢばのグーのふ
づきぞせいのとみちとは由あんぢとまろーめとやめるづへまろにほいて

[illegible]

ぶどあるき人れ

墨まげさいとよふわが力をぶどにおさむるふとひてはちのちんとぶどふ
あすもをかうべーのぶどあの人へかくさうするともうけをさける者也

[illegible]

あはうとまへにたのふのふりかへる

[illegible]

第六

とよきふゆのめづり

聖よき人のたの—ひちんの—さうさうさうさうさうさうさう
 とひてさふぞんよろこび—うな—さよきんちあすこいさす—さう
 わんよん—きにさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うさう人ちいほさおそれあつてさうさうさうさうさうさうさう

[illegible]

第七

をうにこえて必と思ひきつた切れ

三十一

まふまふやまふべー。まんげんおとひてんくろ。まふまふとねは
 ゆりまねちあふべー。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 ね。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。

第八 清き心のまふ

まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。

まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。
 まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。まふまふとねは。

るんずるにきひくあふにり御せんもちいさき事とおひへうぜ
 〇ままだうさかうへのだらきまてもうもす由もあはれとあふ事ハすこしき
 事にあゝどぬとひさいえんかゝやくとあゝへまといふとをいんと
 おひへき事んようむりきゆへちわせらぶ上はきこらわどれ事ハみあ
 わせらぶはゆのふどりのためにあゝたまづや。世のづさ減りら
 どめゝくねもやあゝたまふづされゆとん減わきまへとらとあゝ
 たまふ時もわんめんゝ二たびあゝぐ減へゝあゝえとれらまよとち
 へゝあゝざらやうにるまゝありさいえゝよう。んをどゝ

たけをきりくはれどうのみちれす

四五三

[illegible]

ふいせうにぶーとちろちろこのおやりをぬるたりよとひてきいゆく
よてもんやとたいどさきあふようや。んよそのぞきとめくくかすは
びりげゆくにといひくすまわちあんぢれ縁がよきためにくるすうちみち
びるアめきまんくきくらうなづけらくれどころなりだ。又んよき
くばすとわさげぬよとひていいよくとめくたがゆだ。さつまたぐそれ
としてそこらへでかくるべしづれくるまをほるよとひていふべいの
ふはきにあらまううごひありーくおぼやまりてなもきくすも
あるだ。人とて一人ものかねざうくらすとおんぢひらののがまんと
わらや若人たちの中にいづきうあんざくかすとのがれたまひーぞ
。わしらがつはろろど。おもつさいせれあひとゆくとに一時愈んーも
清むきよんれはくけう波のがねますするりーありまゆへはさきと
くはーとまのぎきよとめくよこがりあひはれにぐらう里やよいちち
あふまわんようちろちろのきうばあんぢおにとしたけときくるにれみち
しをほうとたづぬるぞ。これ清ざいせざうちくるまを清くげんよそ
何りーにあんぢわくのろきとらんぎ波たづぬるや。あきを忘のぐ
まするをやうとたづぬるによひてあかすぐをゆるひるりそのゆへを
げんざいのいのちやくゆるのきくしとてなもききみちくてけろ。夏の

[illegible]

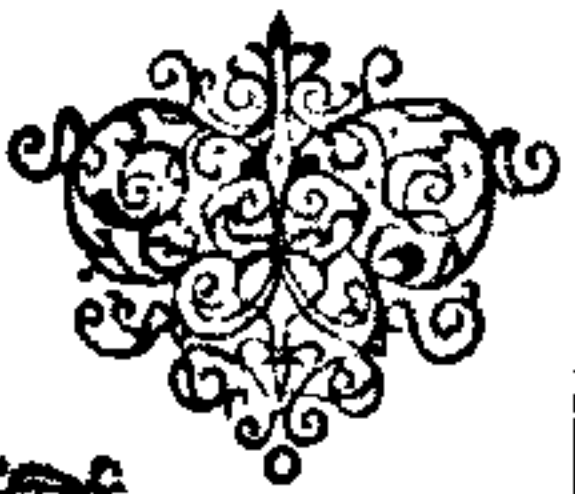
えん。んすう。すう。あつ。ひ。わ。が。あ。い。や。あ。ら。う。と。す。と。こ。ひ。終。り。ひ。は。て。そ。
 何。れ。わ。が。あ。に。て。こ。こ。ひ。何。と。あ。る。や。ど。の。す。城。こ。ろ。へ。げ。ん。せ。ふ。と。ひ。て。
 ゆ。た。う。あ。る。す。と。い。さ。う。を。の。ぞ。ま。ず。う。い。ふ。ん。け。ん。き。よ。い。は。る。ま。よ。さ。よ。
 あ。う。ど。わ。が。あ。れ。や。ど。と。う。ん。せ。ば。あ。ま。ら。れ。す。ど。う。さ。か。て。わ。い。さ。う。と。
 う。あ。ふ。う。ど。ま。う。と。い。へ。ど。も。由。に。あ。の。と。ひ。あ。る。ふ。と。ひ。て。い。て。ん。ふ。あ。
 つ。よ。さ。い。ち。う。と。あ。え。の。ひ。て。せ。う。い。と。ま。さ。ー。ん。と。も。ま。き。が。へ。さ。せ。あ。ふ。
 だ。ー。ふ。ひ。い。で。ま。の。よ。ろ。こ。ひ。と。ち。や。く。ー。我。の。ろ。も。れ。ま。う。と。あ。に。たい。
 す。に。と。ひ。て。い。ま。て。ま。あ。る。て。ん。ま。ん。ぶ。ゆ。ん。も。た。そ。う。す。あ。る。べ。う。ど。
 ○ま。う。時。は。あ。ん。ぢ。二。こ。う。な。ま。の。の。ち。う。あ。の。ど。く。ふ。ん。ぢ。に。たい。と。
 か。う。の。あ。つ。く。は。ま。と。い。さ。と。と。う。へ。わ。い。げ。ん。と。か。く。こ。せ。よ。の。う。あ。ま。さ。
 げ。ん。せ。ふ。と。ひ。て。い。ま。ゆ。ぐ。れ。て。い。て。す。す。ま。ま。あ。る。の。ふ。に。い。と。と。あ。ら。
 ふ。ん。と。あ。も。へ。ま。う。ば。あ。ん。ぢ。い。づ。く。ゆ。く。と。お。と。も。に。ま。ー。く。い。づ。く。よ。
 か。と。ま。す。と。い。ふ。と。も。あ。ま。ま。あ。る。と。い。つ。け。を。う。だ。ー。あ。く。あ。ん。ふ。う。
 ま。う。く。る。あ。ん。ぢ。あ。ん。ぢ。の。あ。み。ち。い。と。わ。ん。あ。ん。す。る。ふ。あ。や。う。ち。あ。ー。
 ○あ。つ。く。の。う。れ。あ。ま。さ。ー。と。あ。ら。う。あ。み。わ。と。あ。ら。ん。と。あ。も。う。あ。つ。く。の。
 ま。の。ぎ。の。あ。ま。さ。く。と。あ。ら。へ。よ。に。れ。よ。ろ。こ。び。と。あ。ま。ま。あ。る。を。れ。ゆ。へ。ち。
 由。る。ん。ぢ。が。う。へ。と。た。が。ー。め。す。ま。に。え。う。ひ。あ。ま。だ。ー。あ。ん。ぢ。な。ん。ぢ。と。

あらへんよのかくであらうとせば大いあるよろこびとゆらゆらと
ゆらたといふあんぢ一人もあらうほどのさんざとあらゆるまうおふと
ひもとをげんざいのんぐら一ききとわきうにあう一うふきみらいの
けらくにくらゐてたいまゐむくうゆはたらき。おの清太切よよて
あんぎにあふまゆんことおぼゆるくらぬよいくらにひてまきとさ
ゆんどせよまゆ人のひせういよとひて天のけらくゆえつけらるん也。志ん
らうゆなりとおぼしのがきんとするよとひてまきうにくらぎと
ひまゆらうらぎ。いづくへゆくといふととまんらうのあんぢがきにそひ
きんか。うん。まきゆきんとわきよとひてすあいらゆんどーらろの
くつろぎとぬぶドにあふべーまきまといふあきらうと志のぐきと
志すわくごあき也。まんたうろともに三むんた天まであげられぬり
いとととえやてきくまをあけはやううきくくらぬにいふちーと
わきまなうき。清太のドまんをいとろよわきふふたにーとまんぎと
志のぐきまといふかどんようちやといふまをあけはべーとのこまふ
や。うらぐゆ人におと大切はわきひなりまがくけうへまらんとわきふ
とひてまきんらうと志のぐきとのぞひまをいふまらう。まがくは
あるまぬいーなりてすこーよとあきまんは清太のくきくまといふ

○みんぢにあらせらるゝにといてはおほくのよろこびとめでたき
さめらばんよをも又ふたいてまつりてむつひさなうあんぎばこら
ゆのみとふば望むがさ事もまたゆふあまのこゝろとせむさきとに
にあてまつり又暮人たちもとうけひとくもりなるなり。わきらが
くどくをわきらがくらぬのたいすりおもたやくのよろこびむんと

ええつとびんちき第二の巻





三
 第
 二
 卷
 終



第一

ふふあ、ろふきあはゆふたいせ
らねのすかんぶんけき

聖はあらどおわぐん中にのみまゝとさゝきうだう。内あるどれはくら
 うまかゝらぬえろのゆことぶとさゝきなりーあかぬくやう也。せきんの
 ひんうまわいらぬおづけきうせきふ丑のゆづけとさゝきなりみくやう
 也。やうまゝとさゝきゆのこゝとさゝき入びまのふもともまゝいせうふひと一
 まゝまゝとさゝきなりみくやう也。せきんのまゝふとさゝきてきやうの
 まゝにんひらくまゝにんくやう也。ゆはゆのたすくらのまゝとさゝきつー
 はくにまゝりてたれはこゝどとさゝきえならんためぢやうぢうのまゝ
 ぢやうとさゝきなりゆのこゝとさゝきなり也。丑はこゝにひまとつひ
 よろづれさゆとさゝきなりひまはるともさゝきなりや。いゝわがあかぬ
 よゝこれとくはんせ。ゆはるーあぢふのまゝなりとさゝきえなりために
 ーまゝのめんこととさゝきなりぢがもひひなるゆかこれのためはくわきと

おきあんぢがそくさいや。あんぢがぶーさんぢがいのうちせわをばさるもふー
とひてちぶぶーとんつくぢー。すぎぢらふときていとりなまふと
たけ祿よ。せけんのもいりうよをほつ河うや。ゆさくふされてより
えあされなるにとひてハ清さくれ物をみかけのぬよるようありぢさ
。ゆことのゑやうとえきためにむしどすていふとぢらふくはめい
せうにうみひきやうにはさくふされてに男減さへげなるぢー



廿の清あとはとるくぐらんばりく
 ちやうしーりひたも川へさす

参いかにあぢもろくれがくまやうのさくめんよまさりてわんこふうま
 わつふとばときけ。わがことばをび里のしめいなり。えげんのちをば
 もてけしひまにうりろんずるまうふなぶるぐとさくくまやうよそ
 あくぞさるりくならもくしてちやうめんさくまやう也。いうにわはるど
 清きせういのあくドとのサーらひはよきて城と一あかーまふんち
 太くちやう也。清きるドのこまはくわきむうよまやう（ふまにと一
 いまにいふもさくでむんにかふりまうさくぞとくぞもわがふとくばきく
 ためよまやう一きにしてみくまひんちまおひきさる。わがふとくばきく

[illegible][illegible]

第三

老ぐれうさけあひなるたらふよのす

❶ いうに、御阿づド世むがためのもろくねわうドハは効そまー事也

○わきま（よいでござん）やういたゞきさうにれくらぬはあゞ。わきま
いうもひんさんあるはひふらん阿さきう。さびーるり。ふんこぶとよば
ざうやぶれごくわくひんさねばいやーめらばさきやんのるり。いうに
わきまドはさびふーくーてけとともたゞさのやくよとさきさきと
おぼーめーいぬーわわはねとたまたまは男は一ぬいのと書にーて
たのくとすぐあるみふもどんどうあひひひんとみふせたまひ
ふざいふんとのこむさーくさーするーあふ也。いりもわあるドは男の
えうりふさわきひとおぼーめーいだーわがふは男のがらさきとみたせ
まきゆへにわさくののひるーくおそくあるまとのぞきたまはねば
るり。わきのわきひとがらさきとわきにはちうとそへぬまいぞんば
いうにとさうけつたるさきめいとものぐまうあふさきや。わがはは
うはかひふきつちれどーあるまどーたために清かはとさびけひて
わきとけきとのさきふまふね。いうに清はるドは男わがらとくよて
まーくぬとふわき見をたまひせうひといまど清さくふされど
わきまやういせんもえやわき見をりまは清男のおがーめを
まきとげさるみちとまーたま（わきま）はるちくざんはりてあつとさ
ていふまこさうーさうやうにとーたま）

世とそにあらうとるくちり
よろいけとらあしひ

聖いうにむわがまへよりひてすぐにひとあつとちとせいつとわきと
 たづねよ。わがまへよりひてまことのみちとをこるひとなく悲にわきひと
 あくめんれむえうたぐらわげをげまことのみおもとまそのがさなむら
 。あんぢまことのみなむとまそのがさなむらにひてわきとのぶゆうと
 えて人のみとなきあまぶわりのまどきせ。いかにわきとのぶゆうと
 のこまふむらわらわらうへはかくえうひまんとたのこまふや。いかに
 内ありドわきとをへひまれとまより上天とでげんまふみちびき
 きのいうにまよせんまよとれみるもとわきいきんともてまよはくれ
 のぞきとみむらあり大切とのがーたまへ。まきまき大きあるんのむゆう
 げとわきとわきまへまきまきうぬなるが。いかにこのみまきとのこまふ
 をぐあるまきとわきまきいさうにうみまきまきいづまきといまきとわき
 あんぢにとーゆらう。ふらうふらういさうとまきとてあんぢまきと
 かへりまきまきまきまきにまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと
 まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと

[illegible]

ゆゑいふもたれとよりなほにもつてもあるや。人によていわせとはに
けつとめどもんゆきそぐうとー。あまにかつてちねあをもちに
あふきやうぞやうある人の話よとわりあひと孫がひといきはつき
えやうとくーきえれためは入来世もせうひの事とばるーともて
と、のゆる也。あらにわけるドかつち此事といやーめ夫の事とてさひ
せまんれまよとくらひやんととてんと孫がよみらばとーへまぶし人お
あまよとてびなる人の曲かうちまふ事をやめんとするなりとくす
もれるり

第五

きんどつは太切のせうこはき

[illegible]

えーめとーてもろくのさんとて決そうきやうする事あるひわが
志のぞくも老よんれおゆうあるらん秘へるひへとくふりさどがの
あうらひゆるひちんとまも里たーあむ事何ひひ暮のみちにさこ入
ゆわんとねもひさざむかこさおとーつけそのほゝまんぐある暮の
玉ゆぎやうとまじくくらひ走りだけささとするや。またうとくと
くらん秘又あさくゆるをびりのさやうばよむ事ばであたらさん
ためにんとくるーめさぬぐれあく秘ん秘をこそ悲思なるくあらて
つことえんげすの事ばさらひうあふあひていたびくあううすちやと
うけまる事もなめさせんとする悲や。たとひがう里やくとかまへ
ただうひとす事たびくになふぶといふともあせとあせせむそれ
わづろ事さわれ。つぬなきはく秘んとりきたらん時ハすまいちおきに
まげえーてつづきいかに決ぬきてんぐそなたさきくハかうつぬ
なさおもづくーくおりへこ進られすとわがみにいきんとするあんらわ
しあんぬはさなさ悲思。何くぢやくおぬうあるほう里やくれやうわが
かとらとたちさままねもとひてはさぬだぐぬすうあふだうぞ。
はよき大さやうだぐくわさとにもにすーませばあんぢハさぐとうせい
めんによよおへさるり。あんぢにどうきせんよをもとほへらく候ーとも

五十六

第六

ふれのをこぼさうめいしてよくたさひききす。

聖い方にいまして善のこうーやにあゝざればあすこの事とまふぶゞき
 ますかんようもらゝこれむちにあゝどあんぢうのぞことまひゝくわきに
 ほうやさんぢがきとなひひもゝりぞくわづさだめと大切と思ひまゝふ

四十七

えんじき事あらびよーきたいれのぞとに
たいしそくふ事

事ぞ。やういふひてちやうやいふ事とけしものごとくさうせ
 すぞーいひぐれめとわこちとふー。みげんざいはあづるぬちあひあ
 れそれといくけろろぐけーきまをいふれてくつろぐまきききや
 だぶんいひぐれときわむらみちよとみあざろー。げうくゆ也。これ
 もけんとけんばう也きゆんあはまりにきやうくとやんとするげゆへ
 ろーみとせきめんととろへてきたのー。さうろろだうもいさそ
 げせいのたのー。みみドろくいつりにしてみはこあくみあうある
 まうあ。まうろといへどとあくめんらあまゆきやうー。まうもくとあ
 りとまきま(げ)で抱いづろちくゆいのどくわづろのくけいドや
 らくれためにほふゆの志だうにまよや。ろろがゆへ。いっにはみふんぢが
 みあうあるのぞとけそだはる事あうまてそれ望とをきりだけよ。け
 ぼろドにたのー。みまらばなんぢがこれのぞとけまふろー。まの
 たのー。みとえわきまをきゆんこくによろこびとけたくなりふ
 とひていせいのドやらくたのー。さときりしてよ。まろるるんぢが
 けんらくくはういぢゆんあにー。またほくのまろこびとあえらけ
 だ。けさくののくよろこびとまきやどまきまをきかんこふく
 たまあるよろこびとくだ。まろろといへどまうあー。みとさうひの

あんなうよくていけくらぬからんが事あるんがさぞ。ふねんくせあさね
こげとあつむけきどをなほせりんが力のよさからん——とてわは
ぎや。あつふくこのきんらうぐきらふへきせどなほぬのりえぬの
のぞこもてなまゆび——あてきあつてんぐちあんぢとせめあさんと
をぞ——あうねどもねらあよとてうあるきんらうとてかき紙をひ
えらひかつてきかた

第八

のぞひやれまにほいて世へと
中あぐさぞとふす

愛いうにむんーふついてかくれどいふだーいかに泣くド泣きやうに
かるふとひてさばまかくあまうーといふ泣あるド泣めいよのため
あうべかくあーせまうーいふ泣あるドこのまわつためふふさまりて
とくあらんとおがーめをよとひてるこまばうあへたまふー又わが
あふまのためにとくとあるまどきとおげーめすにひてわけのぞと
わ建うまをぞけまんとやわぐだー人のぞこいすぐあうさき
うりとねりふといふとみるめくすぴりいさんとままだーますに
あうぞ。あまの泣をすめうてんぐれとこすおうぶこれのぞこま

[illegible]

第九

まゝとれくつろぎとバザールいかにの
たづねをうごめ

聖わがよろあびくつろぎのためにのぞきやどのまうあやうきまうても

るら。めんげんは、いづれをみとふくみ——うき世でんのくわかうい
 一きあいぐいとまのまぐさといまのみおもとふをん中にあふま也
 〇きんぐまんごある人いづくまでわがよろいぶせてはてまう——おと
 ちひまりて中へけさういかにわがうき世のどころよても
 なふいふ時とわきとまにぢう——る。人の中のおぐさもとけさ
 事とよろこびとりちひるやうにんうひまん。又けさうまをさきとて
 わへぬまよろこびのあしたらんときハけさのけさごめとけけんどうと
 りくころこもころひまふ事なれがたきあふまよろこびのかりとせれよ
 もらひきさやめへ。きゆんをわきにたい——いけさでもいうたまふ事
 けさう——げと

わがえぬいとまひく清原ト由
内いぬものもたせなるべき

五

ふもえあゝのふみぶくろりふき命のみふぬふるけづりのふするなをんが
わぐうへふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

父のほかにとむ林としてげんざいのふんぞ
もつかさどつてひときくをぬくをうへる

五十一

いふもぬろくゆりうせあるにけりとかこひをうたためにわやどれえやう
をわうよめんといふべしあづきや

ちむく城こちゆつけくちゆとれ
えんせつる人のきりーれ

五十二

○少いんちをばあさまとらうあるきはんちねらひかんよんの
 若れくらめ行くはんせび又それとけやうどやけのべきけおこともわき
 まへずしてふらぎよくのいろきよときあひてそのとさだ——いのち也
 。そあひてふらぎすによりわがふよまうせてこらゆるすまもこもの
 かんよんめあきど。論ことのかんよんけふ人わきにけにさす若ら
 わきよきうへんらうまたいりうとういあるとこどきど。又若人あく
 はんちあらへまどきあひてうといすまよとをんげさふらんけさくれ
 もれもきさへらきけひあるまよとまやだのあけいほどまてとあね
 けいりおせし。その田の清てよるあきまよとんよくうけなりあまの
 さへ大きあるとくけえとけたり。若也。そのゆへなるおもむづあるま
 よてもけき田はぬいーなりてうけこらゆるやどのまよにきふんやう
 ちのききあ。うがゆへにうんとむらんとおもやかいまのかくごと
 すぢ。かいまけちうこうとねきんでばうてまうんのかかりとえらま

第十三

聖わが男にぬい—わがふせんとえげいた—御力はゆる—へわがよふこ
 もとあゝハ—たてまつりわきとげうあるもとめくえんぶう—うあ
 —じますねゆ—ゆにやうに吾のみちとほとめんと思ひさおむるといへ
 どとわづあるもやうげきぬねばとふち大さよんとく—じり也。まき若の

[illegible]

わびかざりなき世の情とん波思ひ
いづーたてまはらうとてさう

[illegible]

あるひやうにやくあるひやくきん人のまーらおついてうらま
 けんはこーとまーぬさどかへつてらぶよくとよろこびぬひせいなるい
 ちめさむむとふくのぞいふまらあむら。そとりてけれは
 とんけんをりけたいせいのちひなる人といけれそとひのふと
 とんらもどまらぬまへうけわさだめなきたまふまらむら
 めぐきまあとなりひけれのおほめをまにちつうまはるがゆへ
 せけんどやれ大さひいばるまけれのぞむくわむらんとん
 いやめらうまらとよろこびのぞむ也。たきくらぬにそあへら
 ひとくまらいやめさげらむまともなまらんとりてなん
 おどによろあびたのーじき。うらぐゆへはけれあへんださ
 ろるうらむとんよるもこむらよろこびたのーひきまやんい也

第十五

たえねざやうぎとみづらになづ祢
さぐるぞうづら

坐いうふるみぬりに人の上とを望んでなりふ事とみもなき事にせいと
 へる事ありね。たよんのうへちを何りととをえぢのたためる
 るよけなきぞえぢいへわがあとよ望んでねおきへやとるりこきへや

けとめふさいひうちをあんぢがためあんぞや。ゆへよくんのうへを
 うけとりてあんドするもあんぢにあぬらどてあひとりのうへをあん
 ぢやうとん。のまにーにゆへあくよおんのうへをわりのぞわきだきとも
 足まりあめがーたよあうやどのまよさそえんけ一人づゝのうへをひて
 あにとねもひあふ紙のぞもあにらんほて紙もちげろぞといふ事を
 あうらり。うらゆへあんドとわきにまうせてあんぢいぶにめんどうを
 さいがーきます。このひもれとばそれよまうせよ。いふとあふとあふと
 りとれ事もみるかきかうへをわいさるるちゆへをわきだたぶる事
 うかぶる。かげのぞくすさうやまねいせいとるげうとんとあふ
 ーとわきて人もあふたいる。事もこのひもあふれきゆへにこきみる
 あふのなるとまんらんれもひや。さいんよわきたらん事もあふ
 まんぢがいのりことひらくにとひてわきまをさくまんぢとこと
 かとりミッドとあふとん。あんドについてようどんーなるくがらて
 をこたらむたらあふやび。

第十六

んのたーあるぶーと昔のみのたのたのたの
 ゆくまゐるゐるゐるゐるゐるゐるゐるゐる

[illegible]

いらるゝあるあるとてしるすなるれ。きゆんにかやうある来はて
 まれ着のまげさてよあゝのきぞくの着はたにすのみちをふせられ
 ますよきまらぞ。いうにけあるドをうばききめぬのこまへなんぢ
 んドについてききといやーめすこーのすよとねなくのすよと
 さんぢのきことなまれとたづねぞくわがきめとさくぞんだうに
 かとまうすにききまうるり。ひれきやうおたのドはうりけりくうり
 わざいひきといひいよといふあるすよめたのドききよくとりくせよけ
 さいと中上かにけり。まつすふついてさいよとんなくかんめんふく
 んのよろあひけりとりてかさきたらん時あるけも大きあるすけあらゆ
 ねーとくごーわがきとせんーやとねりすふくかやうあるきとば
 うけまどきききききききききききききききききききききききき
 ますとたけとくけんどうあるとねひきとひてききききききききき
 ぶドのみちとゆき大きあるよろこびとひきとひきとひきとひきとひ
 んとたのりーくありき。あんぢんよきやーめらるすとのぞひ
 わざれくらぬはいんらぬとひてきききききききききききききき
 わがききききききききききききききききききききききききき

悪い方みだんドけうけくおもひあんぢが男減えしめとしてくだと
 るげきては海もわが物とほまどきかうんようりのきゆう人の男減思ひ
 ほどす大切のせういにゆるりとのさゆさげよりもあるぢ減そんなさるり
 。あんぢが大切ひとにしていさぎよくあやうろあつたでんドにけむく
 せらぎぼしてきゆうのんとえむ。ちうてにあつたさうまゝどくのぞひ
 すまうね。ふのきゆう減さゆたぐな物とのりすあつた。あんぢが男と
 んドめとしてのだきもくきやどの事といつてうんをわきにまかせ
 ざるぞまゝとてみもあるさうあゝとてとてさうせんともみづらさぞ
 。ほよていうざるさづかいとてんとくろーひらぞ。わづらうひおまつせよ
 いさゝかのそんーしもぼるべうづ。あんぢのぞきおききうておとあらび
 おきとたづねあつたともめあんぢがかりてようんやうふかゝこおぢうー
 くにすじきまふいはんあひだちういよくくろさといふ事もある
 きづうひとのがけつ事をゆるべうづ。きゆう人におもひまふさくあゝと
 ひまするくちづきれこころよきおきまふさくあつた。さうねばもとめ
 えんりやどの事をよそあきまゝとねむひくちやゝあつたさゝん
 ても縁さちうてきりぞけつた事にかうそのききあつたけき。これより
 かいやうのこにあつたさづかいづめいよれみあつたんだぞくみえなき

のぞきよもあつた。さういふに、わがやうなひととて、いかにすまぬか。おれは
 。ほはゆにもくいつゝある。時をさいたまよとあらば、おれは――
 。まだトクン、昔のいーどく（おれ）といふうちに、もとめえらるゝ。ハなぐく
 とく事あるべし。かくいふんは、わざにする。ぬる事なかに、ひてハ
 ところをかゆるといふとも、昔のおさるちゆきんのくつろぎといふ事も
 あるべし。だが、このついでには、おれは、いふやうな事なまゐりなり
 まゐらうといふ事にあする。

第十八

人北ひえうにたいたるあとをたれ

塵いかに人ふをあんぢの事とあーくおもひあへりていある事といひ
 かたといふともさづにいする事あらね。かへりてそれともうてびあへち
 人の中もすあつとくとりふもれとなひとるぢ。ん中にひき
 あも里てぬりにとひて人のとりぐにひもうする事ときよかくる事
 ありてぞ。人ふをあーくいせんと時のいづれであらばわきにけうド
 たぬのまうる事ふかまはばとてみとさへは事いぬともふかーとさ
 ちぬ也。あんぢがぶドと人のうちになくますあらね。まゆ人ふもさぬよ
 ねもひあへりてさぬいひるさぬといふともてあんぢちある事れ人

ある大切とゆふをわすれざる者哉

あんぎにあふこふよとやうにむね
たのまわがめちうとふぞとらふ

函いうに内務省にたいしとまれえ。びてんたさんけるんぎあるまわきに
 さされとれば一め一えべお進級のがけまうおいび又くらきをもと
 ひためええうひもさお進ばけちうけそへえ。いうに内務省にたいしと
 まんさにさいまりわがえんぢうくる一めらけがゆえなびしでのけうう
 りよくたのこまう也。いうよけ大切けけをやまよと中わぐきやん
 ぐはしきまのこせめらけわきをたすけたまへ。わきいませんぎ
 せけうくまのこさげらけけ一めらうといふとこらへとくやうよ
 けちうとそへえ。いうお進級のわきいうもえよくふによいあるま
 るねばけきとふねなりてけといふとえきやいづくへゆくべきぞけき
 かんめんとあたまへ。けきけわきにけちうけあはせええええええええ

[illegible]

ひせういよてあやうぎしてたのー
んくつろぎなーといふ

承いゝまひげんざいははふあーといふあゝぞんぢやうの何ひあゝ
 つねよほふゆれぐそくはたいまづさまあんようあり。なんぢてきに
 とりうこまきむふうみさよあせめらうぐゆふうんあれぬてはつづぐん
 きざをかうむらざしてりとするあつるべからず。まゆのういづきうの
 まよとわきふたいしてまのぐやとわてくんとゆりまへばんげきびき
 えうきんとまのぎてべあとなちれどてんぐふたいして里うんをひらく

4

人々を驚かすにやうな事をせよと云ふ

1

茅坎二

いづれもよさに依いてもよくゑと
みおもやうへをまどさす

ちまりとゆめくさいしておやうろんするするわ。——あやまりふきふ
 んぢーめらきせきめんにとよぶとわふとまいうますなくえめん
 ふそくばかりとあんぢ夫のかあまをとらうーなますなわ。くど夫よ
 んとほうどおにふらちぶよくききめんとものゲー人のまよさにあ
 がけてめいにくにやうどやすらわきとたのまーく思ひくはんぞう

[illegible]

第三

けんぎいのやまびとやーびん

垂いふゝあぢなげらきいやーめられよあわげらきりらひらうと
 ひもとこれうきよるまふあきあぢがんと大よあぢわきおさげば
 せういふとひて人のいやーひらまけろおーひへうど。いうにほゆるド
 わきらハまうゆくとるりてみもなきまよなたやそくたはうけろお
 おもくらんぞねバわきおたいーいていなる所さくの物よをもひだうとえけ
 りますふー。うんがゆふだう星の上よも風方おもゆつくぬいーきうとさき

[illegible]

第四

やうれ事にあまりうろとろさぶ
おいさげやんとさぶさめ

幸いになうきよにゐておはくのみすかまはげういのためよあま
 たり衆のぞく衆ともちてゐまんぢやこほりりとぶトにわくの衆との
 志けんてき衆んよう也。ねほくの事にも、まいる衆ともちてゐあ
 ざるまよひ因とふの衆ううよふも人の志をいよまゝするまはげ
 きくふかち衆也。由とふとよあまなりまはげうひとらんずらふ
 とひてわんはまろもまゝとまたやすくこらゆべ。いふお清はるトとてと
 ろさまゝくもりてゐる衆うあげんせのそん一門とぶなげきとづらある

第五

聖いひにふふんぢが力とすつろにをひてをわきとみつゝぢー。ものゝ
 ちういぢけいゝらうふけいてるふんぢが急こ紙かまゆのますよきまゝうば
 つねよあふ海のそくとえぢー。そのゆゑを力とて、二あびものわや
 まりにけちうへらぢらにとひくはすあちうたうあひあるづさとあふゆ
 ぢー。いゝは清めうぐいぐとひる力といひふにやぢよはいて力をとて
 ちへきぞ。ぢやうぢうふふんぢとていゝくまきあるゆゑとてぢうある
 ぢやうと力といひふにゝらぢとものゝぢぢぢとてゝもにぬゝてて、
 んぢうにあまとのぞむゆゑいゝとなまぢあぢが急ことぞんぢんと紙
 ちとくゝをめぢんべいうでうわぢこのもれとなりわき又ふんぢのちと

第六

啜いって清めるドあんぎのぶせいのわきにちうとあはせたまへきゆへ
 めげんのそくさいいあごあらきさ。たのもしくなりひー人はいくたび
 たのもしくなりきりなりあらきさ。たのもしくなりひー人はいくたび
 ちとみつけいなりきりなりあらきさ。たのもしくなりひー人はいくたび
 みもふさふさなり。きりなりあらきさ。たのもしくなりひー人はいくたび

多岐路

老皇ぞけふたよんのう（はあら）かこもやまりとみてわうう（ふも

第七

人ふをちぢよくひもうといひかくはとさ
世よたのこをひたてまはるべきぞ

悪いにきよ〜んとゆきとへわきにたの〜とかけんのことばをかゝるま
 ふうね。きよのふもとをきこふことばのこゝろに〜とそらふくかぜはきこへてけり
 いふやれやうにわ〜とをうの〜人けうでわをまうふにぞ。なんぢに
 あやまりあ〜ばあち〜とあはきんとたり〜。よそがなま〜といひてハ
 甘〜たい〜なりてん〜するま〜とよ〜とぞん〜。あんぢき〜を
 せい〜えん〜とうろま〜うあ〜び〜る身あまきせめて時〜とづ〜あるあ〜とぞと
 こらゆ〜ききき。いま〜〜ききんのか〜うどなり。人のねもくもまね
 ぎらゆ〜よわづらあるまもきび〜くやがてん〜あ〜い〜や。人よ〜い〜や
 ち〜ら〜とま〜とね〜るがゆ〜人〜よわがな〜とぞといさめら〜とま〜といや〜ら

何やまりれかくれどだつ解かざらんとするや。うらぐゆゑにあらんいもて
 やういと志すひよ人のきにあはんとおひのみもあきのだとさうんちと
 まさまへよきゆゑのあぢれと何どにうてせさめんゝとよぶますとわづ
 男れさうますとのがきんとする解めいもさうめんゝよへりくざらんと
 あくせういとまゐりあぐいとひすてなるますあきうらうら。わづことはと
 きくにひくといくぞくれ人のいひかく解ますをゆとをれりやうぞ
 。あくまんとのゆるやぞれちおよく解たくとていひおくるといふと
 ぐんドとほけてと解いちみちんとおおもひざるにとひてああんぢが
 ためひいさうとそんとあるますあぢうぞ又あんぢがもうとわくやどの
 ますもうあふべうぞ。んのそこにひきおもらうぞわき解もくせんにもと
 ざる熱バ一ことづといや。めらる熱バたちまちさうぐ也あうりといへどと
 わき解たのもーくむひさ男れえを解たのまざら熱バたそれあく
 してさうやな。わきバまんどうのさーてあらあやどのむとつと
 ありぐんドとさちああるがごとくー也。ひだうとさうらる熱ども又
 いらゆの熱とともくみー也。うやうれさいふんちおよくの志ゆけらい
 するますいくりさとかさあれためよわきあぢが解よてぬあるら。さうと
 ちうく解ものとなはあふんてともわきあぢうめいさうとさうとさうとわづ

[illegible]

多ばるにとりどきいさめまふまゝもなうくあうにうあんにしてうけ
 とどひづきまゐるう。いぬもぞわやうにおもひざりーをきのをがとゆりー
 たまへまゐいごゆざんなくわんふんいふとをさためにづさのゆかう
 りよくとあーまたのこなる

より大きいのちれたあはるん
かきかきかきかきかきかき

愛いかにむねをにたいしうけえどめなりきらうにほつたすまなく
 ほんろふんぎにあふともたてうすまなうね。ふたふゆひらいするやどの
 ずについてわがやくそくするふんやうになのふとみちうとえふあ
 こぶぢーのふんうりうり目おあしてふんぢにひくひとめとあつすわ
 うふふふふらうふふひてひさくきんらうするふふあうらうと
 もてせめらうすまをゆるべうだ。いふすこーまであくーれえやくとせ
 ゆくすたとだう。あえらうあつすまをかまびせーきすといふえんはる
 ときふらう。ふいふくともふふふふらふんらういふづうふーせみうき
 せ。あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふーはらふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

といふもあらうぞ。さういふのちともめんだめあふい
 ちんぎともんめんもききすにあゝぞや。世の清くにもこむると
 うーまふはすこゝききすにあゝぞ。まうあひだてんと何よきみよ
 ちんぎと。又とえどめなりもろくせんとはみあせういよてゐたき
 ちんか川きんにちうとほくーいぬえうなきあいぐは城さめ世の清
 くによつゝがなくぶトにくつろぎいつまでもあづへるまゐ

天上のたのしみとげんざいれ
もうあきあきとらんずるぞ

六十七

[illegible]

時々あちちうにいうづわのあんどまのぐれ也いかにわが世をきくると
 そはざうりあふますさうわがどづとゆるーのひてけしやのこをゆえんト
 えなちあふますさうわ

○いっになりなき論ことのみまもとあふなりつてこそさあく録、よう
録しもわき紙だざらうせざるやうに清ちう紙そへたまへ。清方の
かんろれけおとさくたまたひてもろくわけからハキキヤとわがまへ
もええらひのけたまひおりまゝのうちには清方よりやつたものといふ
りのみをもさすべしとぞいとめてゆめ。一々。論ともふさんげーなる
いくこびるはらの時んのもらんよとよぶべきゆへハキキたいのおい
はか（な）ハナかりあるとどくも解とめていくがハキキといふいはする
またなまや。わぐんのまげくつうずるところを大切やりは熟なり
○まやうとくわぎにいむたの一もなきなりまばんとやく録んは
Vbi enim est thesaurus, ibi est et oculus. Matt. 6. あぢぢれたるのちころころあんど
んとほりとのこのや。天のものごと大切にねの（ば）すまいちまのものと
つ録まりんにむいてはなぬ（な）世間のさいごのともしびにいれさいあして
うかいむ録せ。一かなんどもあて（び）ふまいち一きそのまばまげく思ひ

第三十

とつりなきいのちとのぞびてきまつけぬち
 苦のみちふかひきんすりぐとぐに曲やく
 そくとのふはるやうのみ

悪いにさうりあき天のけらくにんもしたつとおはえうき世とんふき
 ときーんれろふいとてとくねあたびとにくはんきれん城とこー
 ふうきのぞきともてけたけときゆととづき城うけよ。かくのあとく
 あんぢにたいしてゆんよくえうひもたけときき善どくのみるもとん
 かくにけあきゆきいとやあぐど。そのゆんをあきまんぢのさいかく
 あげきとりくえんあきあきどくさいドやうのゆきひとりくえんひ
 むきとこちあち。いかにひひのもしたけあきねとくどきけありけ

[illegible]

○わが方とすてぐんり善れみちおせいえててげます二んふき内あるドの
 けえんかこれれまふはよめとていつ世をためさげあひひる
 ○おまたいーて方とせのまますの中にとりいさきあさうふますとん
 よんーあるんぢれせんどくとかくまやれつとめがとさますあー
 ○まうといへどまこれらのえんらうのそくふりますとえんずり
 とひていつとめがたさますあるべうむ。うにひてとすこーわがぞん
 ぶえんふあさーなくかりとーくてん。とひていつまでもぞんぶ
 のまにあらべー。そこにとひてのぞむやどのまふやーひまにもら
 さらけうーるまふあるべうむ。そこよとひてあるんぢのぞんぶんは
 いつまでもわがぞんぶんとひとーるべー。そこにとひて一人もあえんぢ
 きにさうひあえぢばうらとまんぢとふせきてきたふまふあるべうむ
 ○えあるむれこのまーまふとひとつまめとめてがんせんふもち

第廿一

夢をみるは死すべし

坐まいふみあんぢんのまもある時をびつりのえとわんろとおぼゆるよわとも
 あんぎふんがんのときなりくどらてかんさんするまわさばわがふい
 せうにかるまふ。ほーにんもすこーれきにわはざるまふとまうくるとて

○たふんれなんぢあるときさんぢはいうまを一つよくしてけうけとるー
ちうとつくとくんとりきあんきあんぢのかどおきこねばたちまち
んとみどりちうとつとてけるお世。あねられためーとめくあんぢの
よいきまていさまへよ。えうにうきよのさいまんはんぢぐごきやう
だもこのためあねだちうれをよぶやどけあづさんとわひひさぬめ
まじゝんとらるーじりあなれ。さんぢのうへはかるるんぎとよろ
こびてあらゆのあうありぞいせめてんはんほもてうけべきお世。いとふ
ぢあるまといひみけらうときいうねらるにとみてきたらまらんを
をさへんさくともぐのあーきかゞみとおらざるやうよみむりある
ことわざといひいそげうぢ。まゆがゆらになこいいうりの内さひとめて
やどなくまけまりてんのいこをかんことわりうるぢ。わきまを
らうけみおもひあふんきのきざつわきわたのとかけあぐとめて
よぶみやひていつ林よりもちかかう里よくとあしせんほよろこばまん

えんはとひんちき第三の巻



又ばまおびちまきやうき第四

第一

たのききゑうくらまぢやとうけちうふい
いかりのうやまひ入きぞといふ

Venite ad me omnes, qui laboratis, et onerati estis, et ego reficiam vos. Matth. 11-

こゝろにつゝなまきわ連らとゆゑにきこれとわやせいふさおのゆゑぞ
○ゆゑわくのこまいぼんばたきふあねときん又ゆゑちうづきまらんさ
おひたけき

○昔人あるの志さへその男とえどめと——ではこ——のよんどゆと
ともふふとらんためはゆらうといふたいせん百縁のあひだまんうう
えくともてつくらたてらる——にいうでわきてんちれはさく——やよて
き——中子ほろどと中うけなうたためおる——時よきこのへとびいとす
べきぞ。所男の志だ——くおほ——めさきならのいせははさづけのさきとんと
にさめとくためはゆらうといへる入物とくつる事さききよてとこのへ
百まんれわうでんよてうちくいまれんちふいんやわおさてのみよめど
一めいのあきとてよてき——中子ほろどと中うけなうたためおる——時よきこのへとびいとす
きにほと中うけなうためらるいざらえるといふよんどゆとおさめゆひ
だいぐのていさうの中にならる一のさうめん清きとうやまひさる
ためよ七縁のあひだふたきあるみぞうとさうむの——ひはのあひだ
きくやうとさきわきとくれさ——げもれらんげんぶかくとさう——て
みぎはあ——いさもいせきのほくりまはらうといふいさものとそあへてき
きふふとんの中にならる一のさうめん清きとうやまひさる

あひださへきくともくすぐり来りあひださばかりといひてうわが
あはれはあつてなごころをさぞ。縁があらせめてこびりとも
すこゝのあひだまんぐともひてくらうたらんよ。さればみぎにさぬ
せーんくちないせうにうみひならんにめふいかなどうせいえをつく
さねーぞ。うみくきうあたのときあうりそちやとうけならんと
ぞんじあつ時すうらそめにわくごといぬーさんらのんとぶつめんと
すうすうまき也。ぬーふねはへそへみぢりある縁んもそこらでふふ
ふふはくはねとんとうすまきまやんの也。ゆいんとあまば
わあふぬはほんぢよとやうくうとあーぢぢぢぢぢのけんぢよの清
ほろどとやうけなねば。まふんこよとよとあまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まふねとみぎのあまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ふうくま——ますむひつていさうのきんぞにあくらさきれうら——世の
けんとんぼくろんどその清きいと——てみぎのゆるめまへてくはんぞ
ゆやく——てまひまひさゆぐれくはんげんのぐとさ、のへうとをつくり
どんこんおもうと——とさざめさざら逆の勢をもひりつえんとのづさ
もよとさねめひてゆくはんきゆりたびくあるむとみるひき物とた
ドてうぬひたまひそのうへいざらあるのどんとんにあふるを世と
たけとこまいよろをんがくとそう——てあがめなるやうに——へま
。さうきかのあるれまへてさへかやうにまんどん城とこ——て世と
うやまひまひ——にいんやいぬのよれわきらとこさいきり——たんうけ
たさきさううらもちやれさうめんと城うけなる時きけまへとひて
いうやどのうやまひまんぐ城とこ——なるんすも門むらあうんや
。あまこの人善人の世こついでとおびためふかくとまりさきゆさぎやうと
きいてたどろきだうてらとめぐりまんぐ志ゆきよく城めくおざりまん
——やのたぐひよてつ——まれやをあとれけあついでとすひいてさなるふ
があとの上のべほとあるれとの物のけさく——やまよけん志よのけあろ
わが世よてもう——すけかざきにけさううらもちやにま——ますよおに
とてまんどんとこ——おみたけとこなるさうんや。あるひわののびきふ

[illegible]

おとらたてまほるる

あうらまのうらふたきうー

「うーたまたまさうでふゆるーぢい、成の、そんたい」

うやまひをいそぐもてちづきなる身もつむら也

えーえんーやばさうめいー志んぢい
あーたんとおひさだひるま

いひわろじうすゐるわこー。わがためよきこととせば大にまふこひ
ためんのもきき紙見てりかーむ也。きつのもあつてなせんかうに
いとらんと思ひさだめあづきよきにつとじうすゐるすくかきや。これ
おきらのものとえどめとしてきやつゆやまりとおとぐくいやそこん
ひさんぼ中よりのちいそがねつものきとわいくさだめおうちかくごと
りくげたりときえうりせちやあらはづききならにとひてハ御ゆるし
もききつともゆりー多ひきゆん〜あるぐさとかうするべき事也
あうりせちやとうけききためよせいと
つく〜てきかくごとなふきき

あうらもちやとうけさるたぢやあうらと
つくしてきかくはなま

七十六

[illegible][illegible]

第九

むいでばふまへとてたけとをきゐうりす
らやとゆうけたてまつ里志ぬのうへにとがれ
けゆるーとこひとてまはるづとす

[illegible]

のぞき覗きとこゝろをわきまをうけなかりそへなり。さかの若人たら
ふつききんぐとねほしらねーもとわきもんきなるくらゐゆくとよび
中々むともきもしたつてきんぐとわきもんしておやしたくのもじ也
○いっにみかめたれときさうめんとしてゆうけなかりふくさくといえ
たくたもどあひかまてききんぐみめうあるはますとさぐりてを
まあね。人のえをいよとぶあとりちよあまをわきまふくさくとも
えうよや。うらやふよひつうきろんざねさーとさむいてききんぐ
るらくぬりとてばたれときさうめんといちうづきさうともがうわ
たくやうや。うげとさきあとりとさぐりたづねとてあすこれん
んとさんえーまんどうーあひなり考也。目があふまこととろうに
げやんあるさくの物の上とさへはさきさうするまうありげーとあよりぎやう
がんあるもとげとてわきまよきや。なりくあらてまんぢがあ
なのちねほいでまにはおどろきまうよとひていた一をもさうたるの
ちあふんのけねあぢにあえらるべー。人はよていかのだいよきさう
めんとゆうへは時としてふあんをこりてんぬさんとだがゆめ也いふまじ
あまはきんのんよりとこらげてはさうめんといふまじとくあらんは
さぬとげんとすってんぐるととこも考也。あひかま(て)かやうある

○きうまゐぢがふんべいおとよばざらまほろといふともぞんどろふひ
めふせようちまちでなれ。甘々人酒たぐりわぬくねがーめさびこい
おのきがふんべいとあまきにたのしみですものうかへてわさと力と
たもうおふね。甘ひひとへりくごらうおと大切なおぼーめーるべ
あまらの人くに清きとちしせのひかんべつとあこまふ世。ひやくあり
身とあらんと秘がよまんさなるおはれくれうだいさゆますとあ
ハ一たまいど。えげんのだう里とまほかいいうもよくまよひやすさ
お色。ひいでとも甘やの清あこふきまよふますあ。甘くとあ
といりまゆさぬじやうむ念ふくそんでんとりおひたまふそんあい
なれたそのけいすきのわざも人のちよふんべいおとよばざることばもと

FINIS.